



令和4年度 市政執行方針

3月1日に開会されました令和4年第1回紋別市議会定例会において、宮川市長が市政執行方針演説を行いましたので、その概要をお知らせします。

令和4年第1回紋別市議会定例会の開会に当たり、私の市政に対する執行方針を申し上げ、議員の皆様並びに市民の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

私は、これまで、市長としての責務を果たすに当たって、「地域医療の再生」、「中心市街地の再生」、「観光の再生」の3つの再生を基軸として、まちづくりに取り組んでまいりました。

しかしながら、今般の新型コロナウイルス感染症の拡大は、それらの取組を一変させる影響を及ぼし、市民の命や健康、経済活動、まちの活気に大きな影を落とすものとなり、今もなお、その不安は取り除かれていません。

私たちが今直面している課題は、「コロナの克服と、そこからの再生」であります。

私は、このまちを守るべき市長として、常に皆さんの先頭に立ち、未だ続くこの難局を打破し、市勢浮揚に向けてこれまで以上に全力で取り組む決意であります。

一方、この厳しいコロナ禍において、これほどまでに、このまちを応援してくれる多くの方々の思いを強く感じた時もありませんでした。

本市の「オホーツクの流水と自然を守る寄附金」、いわゆる「ふるさと納税」は、全国で2位となる寄附額となった令和2年度に引き続き、全国の方々からたくさんのお支えが寄せられています。

全国的な消費の冷え込みや海外への輸出の減少などがみられる中、本市の魅力ある特産品は、返礼品として高い評価をいただき、市内事業者に潤いをもたらすとともに、寄せられた温かい寄附は、子育て支援や中小企業への支援を力強く実施するための貴重な財源となっており、深い感謝の思いしかありません。

また、国内外で人の動きが鈍くなったことにより、大きなダメージを受けた羽田便においては、同日の往復便に折り返し搭乗する、いわゆる「紋別タッチ」が大きな広がりを見せ、本市にとって欠かすことのできない航空路線の維持に、希望の光を差してくれています。搭乗してくれている多くの方々はもちろん、その取組を盛り上げていただいている関係者の皆様に対し、あらためて感謝を申し上げます。

うれしい出来事としては、昨年の東京オリンピック・パラリンピックにおいて、本市に事前合宿で訪れたボクシング全日本代表の入江聖奈選手が金メダル、田中亮明選手、並木月海選手が銅メダルを獲得するという快挙を成し遂げました。

合宿の受入れに当たりましては、新たにボクシングリングを整備するなど、コロナ禍にあっても、より効果的で実践的な準備ができるように努めたところであり、単純に合宿先として歓迎するだけではなく、しっかりとした練習環境の整備に努めたことが、自国開催のオリンピックでのメダル獲得という成果に微力ながらも繋がっているとすれば、大きな喜びであるとともに、大会後、女子選手としては初めてのメダリストとなったお2人に訪問していただいた際には、明るい笑顔と快挙を成し遂げた自信に満ち溢れた姿に、私も大変、勇気づけられたところであります。

これらのことから気づかされることは、ただいま申し上げたそれぞれの成果は、突然生まれたものではないということであります。ふるさと納税につきましては、平成20年度の国の制度創設時から、本市においてもいち早く取組をスタートさせ、市内事業者と強固な信頼関係を築き上げながら、地道に努力を継続してきたことが、いま、大きく花開いているものと実感しています。

羽田便の維持につきましても、平成12年の就航以来、途中、新千歳經由便となった苦しい時期を乗り越え、本市のみならず、遠紋町村や市民団体と一丸で路線維持対策に努めてきたものであり、スポーツ合宿の誘致・受入れにつきましても、長くその取組を継続してきているものであります。

一つひとつの事業を、その事業をスタートさせた時の信念と目的を大切に、常に強い思いを抱きながら、かつ、着実に継続していくことが、周りに刺激を与え、大きなうねりを起こし、いま、このような厳しい状況にあっても、まちに喜びと潤いをもたらしてくれるのだと、あらためて、まちづくりの原点を感じたところであります。

今後も、その原点を忘れることなく、しっかりと先を見据え、自信を持って歩みを進めることで、まちの再生・発展に向けて、全力で取り組んでまいります。

1 誰も取り残されることのない医療・福祉・介護を実現すること

■ 新型コロナウイルスワクチン

- 正確な情報収集と発信に努め、3回目の集団接種についても安全かつ確実に実施します。

■ 地域医療

- 広域紋別病院の診療科目の充実と民間医療機関への支援制度の活用により、強固な地域医療体制を目指します。
- 北海道立紋別高等看護学院の移転建替えについて、未来の地域医療を担う看護学生に選ばれる学院を目指し、令和6年度からの供用開始に向けて事業を進めます。

■ 地域福祉

- 社会福祉協議会等と連携し、生活困窮者に対するきめ細かな相談対応や自立支援金の給付など必要な支援に努めます。

■ 障害者福祉

- 多様化、複合化する相談内容に対応するため、基幹相談支援センターの機能強化に努めます。
- 紋別市障害者就労支援事業所を中心に、障害のある方が、本市に定着して、自立した社会生活を送ることができるよう支援を充実します。

■ 高齢者福祉

- 成年後見業務を担っている社会福祉協議会を中心に、成年後見制度に対する体制を強化します。
- 地域包括ケアシステムの深化を図るため、外国人留学生に対する奨学金制度などにより、介護従事者の確保に努めます。

■ 子育て支援

- 「子育て応援基金」を活用し、学校給食費等の無料化をはじめとする子育て支援策を継続します。
- 保育需要の高まりに対応するため、民間事業者が行う小規模保育所の設置等に支援します。
- 近年、充実を図っている、子育て支援施策を効果的にPRするため、プロモーション動画を作成し、子育て世代の移住・定住につなげていきます。



保育所 給食の様子

確固たる基幹産業を守るとともに、 新たな産業・雇用・人の流れを創り出すこと

農業

- 新規就農者に対する研修費の助成や集乳路線の舗装整備など、ハード・ソフト両面で支援します。
- 上渚滑地区の営農用水について、将来的な取水量の増量に向けて河川流況調査を進めます。

林業・林産業

- 森林環境譲与税を財源として、森林整備への支援や、民有林、市有林の効率的な施業のための基盤整備を計画的に進めます。
- 公共施設において、率先して地元産材の利用を図ることにより、民間建築物における木材利用を促進します。

水産業

- 水産製品検査センターの移転先として、市が取得した幸町7丁目の旧薬局を改修します。
- 第2船溜西物揚場の屋根付き岸壁の整備を進め、安全・安心な食品都市づくりを推進します。

商業等

- 事業者のニーズに合った快適な商業環境づくりを手厚く支援します。
- 旧道都大学の一部施設を活用した植物工場事業を、新たな産業創出のモデル事業として応援します。
- 市内産業の振興や生産性向上に資する、新たな取組みやものづくりへの設備投資などを後押しします。

雇用

- 「インターンシップ受入奨励金」を創設し、さらなる労働人口の確保に努めます。
- 移住・定住促進のためのPR動画やガイドブックを作成し、情報発信を強化します。
- 「外国人留学生インターンシップ受入支援事業補助金」を継続し、外国人材の確保に努めます。

外国人との共生社会の実現・国際交流

- もんべつ国際交流ステーション「すまいる」を拠点に、活発な交流事業を展開します。
- 「外国人活躍支援サミット」などを開催し、外国人との共生社会の実現に向けて、市民の意識醸成と自主的な行動につなげていきます。
- 「日本語学校」の設立に向けて、民間シンクタンクによるバックデータを基に、市民の皆さんと議論を深めています。
- 若い世代が、直接、他国の文化や多様な考え方に触れ、優れた国際感覚を養うことができる機会を増やします。



もんべつ国際交流ステーション すまいる

観光・オホーツク紋別空港

- コロナ禍からの再生に向けて、いま一度、体制と戦略を整え、観光施策の立て直しを図ります。
- アフターコロナを見据え、羽田便搭乗者数の回復、札幌定期便の再開に向けて取り組みます。
- 空港施設の拡張、給油タンクの新設、チャーター便の就航拡大に向け、空港専門コンサルタントや民間シンクタンクによる分析結果を基に、財源対策も含め、国や北海道と協議を継続します。

避暑地化の推進

- コムケ湖エリアにトレーラーハウスを増設し、最適なロケーションで野鳥観察ができる環境を整えます。
- 自然環境を楽しみながら働くことのできる「ワーケーション」を普及させる取組みを進めます。
- 森林公園やガリヤゾーンなど、様々なフィールドをフルに活用したコンテンツの開発を進めます。

高規格道路旭川・紋別自動車道

- 遠軽―上湧別間の整備促進、上湧別―紋別間の調査促進について、力強く、国に要望します。

新しい生活様式に対応し、誰もが安心して集い、暮らせるまちを創ること

脱炭素社会の実現・環境衛生

- ・「環境基本計画」及び「地球温暖化対策実行計画」を策定します。
- ・公共施設におけるCO₂排出量の削減と再生可能エネルギーの導入を積極的に進めます。
- ・新庁舎についても、「ゼロカーボンシティ」のシンボルとなる庁舎の姿を目指します。
- ・リサイクルセンターの新設に向けて準備を進めます。

市道

- ・幹線道路を中心に計画的な路面整備を強化します。
- ・学校周辺道路を優先して、歩行者の安全確保対策に努めます。

住環境

- ・3棟目となる「まちなか市営住宅」の建設に着手します。
- ・公営住宅全体のあり方について再検討し、長寿命化計画の見直しを進めます。
- ・水産加工残滓(加工処理後に残った部分)処理から発生する悪臭の改善のため、民間施設の設備整備に支援します。

上下水道

- ・老朽化した配水管、管渠を耐震性のある管に更新・改築します。
- ・花園浄水場、アクアセンターの設備機器を更新し、安定的な給水と適切な污水处理に努めます。

公園・緑地

- ・オホーツク庭園の四阿の更新など、老朽化対策を行います。
- ・公園施設長寿命化計画の見直しを図ります。

防災・消防

- ・紋別中学校、スポーツセンターに非常用発電設備を設置し、避難時の必要電源の確保を図ります。
- ・防災活動拠点としての機能を発揮できる新消防庁舎の整備を進めます。
- ・水難救助隊の設置に向け、潜水士を養成し、水難事故時における救難・救助体制を強化します。

交通対策

- ・オホーツク交流センターの外壁及び屋根防水改修を実施します。
- ・市内バス待合所の新設、建替えを計画的に進めます。

中心市街地対策

- ・タウンマネージャー等の活動により、「みんなのマチナ化プロジェクト」の活性化を図ります。
- ・ビジネスコンサルタントによる講演会や出張相談会を開催し、市内事業者の経営力強化につなげます。



まちなかVR体験会

デジタル化の推進

- ・「DX推進計画」の策定を進めます。
- ・本庁舎におけるキャッシュレス決済及び住民票等のコンビニ交付を導入します。
- ・「窓口業務支援システム」を導入し、「書かない窓口」「やさしい窓口」を目指します。
- ・LINE公式アカウントを開設し、「持ち運べる市役所」として、市民サービスの向上につなげます。

｜ 学力向上・学校施設整備

- ・学校図書館司書や学習サポーターの配置、「教育向上プロジェクト」の取組みを継続するとともに、GIGAスクールを推進し、小学校から中学校、高校へと“つながる学力”の定着と向上を目指します。
- ・小・中学校の体育館照明のLED化を進めます。
- ・各中学校校舎棟の屋上防水改修などの施設整備を計画的に実施します。
- ・紋別小学校前の市道を拡幅するなど、児童の登下校時の安全を確保します。

｜ 不登校対策・特別支援教育

- ・スクールカウンセラーを増員するとともに、スクールソーシャルワーカーの活動日数も増やすことで、よりきめ細かな相談体制を整えます。
- ・特別支援教育コーディネーターを配置し、経験と知識に基づいた相談体制を充実させます。

｜ 地域で支える教育

- ・部活動のあり方について、市議会の協力をいただきながら議論を深め、子どもたちにとってより良い環境になるよう取り組みます。
- ・「学校支援地域本部事業」を活発化させ、地域資力の育成及び学習機会の支援を図ります。

｜ 紋別高校支援

- ・全生徒に対する1人1台タブレット端末の整備を支援します。
- ・外部指導者等による野球部の指導体制の充実とともに、学生寮での生徒の日常生活を支えます。

｜ 生涯学習

- ・リカレント教育の推進のため、様々な学びをオンラインで視聴できるサービスを導入します。

｜ 図書館

- ・電子図書館に、子育て世代向けの電子書籍を充実させるとともに、タブレットの貸出も行います。

｜ 博物館

- ・開館20周年を記念し、「名寄本線開通100年」特別展、本市出身の芸術家、竹澤イチロー氏の作品展、講演会を開催します。

｜ スポーツ振興

- ・「落石アリーナ」について、屋内スポーツ施設としての活用はもとより、市民の誰もが気軽に運動やレクリエーションを楽しめる場として運用していきます。
- ・株式会社コンサドーレとの連携により、引き続きサッカー指導者の派遣をいただき、紋別高校サッカー部のチーム力向上と競技人口の増加につなげます。
- ・北海道日本ハムファイターズ主催のイースタンリーグの試合開催、横浜高校野球部を招いての交流事業などを通じ、市民の皆様や子どもたちがスポーツに参加する機会の拡充を図ります。



紋別高校野球部加賀谷監督による指導



旧道都大学体育館を改修した落石アリーナ

市政執行方針の全文は、右記QRコードを読み取り、市ホームページをご覧ください。

